

## 2024\_1212「12月のオーロラ（写真）」日々の理科 3780号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

私のプロジェクトが観測の拠点にしている、スウェーデン北部の北極圏では、12月に入って湖もすっかり凍り、雪景色になりました。冬至前のこの季節は、24時間太陽が地平線上に全く姿を現さない「極夜（きょくや）」を迎えています。

太陽が常に地平線下にあるとは言え、正午を挟んで数時間は、南の地平線付近がわずかに明るくなります。実際にその空を観察した感覚では「朝焼けがそのまま夕焼けになって、すぐに夜になる」という感じです。夕方の4時ぐらいから、翌朝の8時ぐらいまでは完全に真っ暗になるので、この季節はオーロラの観望チャンスが長時間あります。

今年は太陽活動が盛んで、12月に入ってから連日すばらしいオーロラが出現し続けています。この冬も現地には行けそうありませんが、現地のカメラから送られてくる画像を見るのが、毎日楽しみです。

(2024年12月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス／東京から遠隔観測)

